

授業方法について独自に工夫していること【人文社会系】

今回初めてプレゼンテーションソフトを用いた授業を国語科研究BⅡ、国語科教育CⅠにおいて行った。結果的には問8の回答において①強くそう思う、②ややそう思うの合計でBⅡが78.4%、CⅠ72.4%となり、CⅢの53.9%と20ポイント近くの差がついた。しかし、問1や問2の差は3つの授業で差がないことから、講義科目としてプレゼンテーションソフトを用いた授業方法をとることは学習の質を変えるものではないということもわかったので、「独自の工夫」には挙げられないかもしれない。そのほかの方法に独自の工夫をした覚えはない。きわめてシンプルな授業である。

- 1.1年(AⅡ・BⅡ)では、国語科の歴史・理論・教材研究など基礎基本を学び、3年前期(CⅡ)は、教育実習前に指導案の書き方を習得し、模擬授業を行っている。3年後期(CⅢ)においては、指導案を受講者分印刷し研究授業の振り返りを行い議論した。教育実習に対応した指導過程としている。
- 2.学習指導要領と国語教育界の動向および教育現場での実態をふまえた教育内容となるよう心掛けている。
- 3.将来教員となることを前提として、自ら課題を発見し、それについて主体的・自立的に考えることを学生に求めている。
- 4.言語とは何か、教育はどうあるべきかといったラディカルな思考を促したいと考えている。

実際に教育現場に関わっているゲストを呼んで実際の話の聞いたり、ボランティアに参加させるなど、外国にルーツを持つ子ども達の教育現場を身近に感じられるようにしている。

「独自」に工夫している点は、恐らくないと思います。これまで見てきた様々な授業から、自分に活かせる点を取り入れたり、テレビ番組でヒントとなるような「わかりやすさ」や「伝え方」、「疑問」や「課題」の提示の仕方など、日常生活の中から活かせる点を考えて取り入れたりしています。シラバスは、少なくとも3回は書き直して、受講生の実態や要望を反映させ、毎年、改善を加えています。社会科という教科の特性上、実際の社会で活躍する人や専門家との連携を図りながら、授業に活かしていけるように心がけています。

言語・文学・国語教育の専門的な研究の動向と、現場での実践との間をいかにして関連付けるかをテーマに、具体的に教科書教材にそくして説明をし、教材観を文章化したものを作成させること。また、基礎知識に関する小テストを行ったこと。

教育実習直後のこの時期であるので、授業実習で体験した成果と課題を踏まえて、その課題を解決できるヒントを得られるような、実践的な授業スキルを身に付けられることを目標に設定した。具体的には、模擬指導案作成とそれによる模擬授業、事後協議会での相互検討などを取り入れた実習形式とし、特に事後協議会では、生徒間の話し合いが生まれた授業であったかどうかを観点として重視した。また、生徒の見方・考え方を育てる社会科授業を意識して構想をさせるために、現場の授業実践をまとめた図書を、参考資料として活用した。

- ・学校現場における授業者として、具体的にかつ有効に活用できるよう、できるだけ実践に生きる授業内容を心掛けた。
- ・教師の一方的な説明に終始しないよう、学生の意見や考えを引き出すことに努めた。

学生が、とくに自分の話し方(表現力)について意識できるように、5分程度のお話を発表する機会を設け、一人ずつ学生が相互に採点しコメントを書いて評価するようにしている。

50人以上の授業ではありますが、すべての学生とできるだけ一対一の関係を作るよう努力しました。そのためには、学生全員に授業日記を書いてもらい、必ず読んでコメントをしてその都度返却しました。

- ・教育実習直後の講座だったので、研究授業の反省から課題を明確にさせて、修正指導案作成を中心に置いた。
- ・講義形式の時間を短くし、アクティブラーニングを意識して、授業を進めた。
- ・グループ討議・・・3班編成にして、授業づくりの基礎を講義しながら、グループで代表指導案を検討していった。

グループで討議する過程で、各自の指導案見直しに反映していった。

修正指導案の発表を検討することで、授業づくりの基礎を学びなおした。

- ・実技演習・・・板書の基本技能の習得のため、実際に黒板で書く活動をした。
- ・模擬授業・・・読書指導における「読み聞かせ」を何度も体験した。
- ・受講者が、12人と少人数だったので、意見交換や実習が充実してできた。

2クラスともに、50名近くの履修生がいたため、講義中もグループワークを取り入れたり、発表をグループで行えるよう工夫した。

授業内容を内面化するために、グループでの話し合い・活動を重視しています

社会科研究B I の授業内容において、地理的分野に重点を置いて、授業を進めている。その中で、地図に関する技能や地理的知識の空間認識力や地理的な見方・や考え方を養成することが大切であると考えている。地理学はフィールドワークの科目とも言われ、可能な限り野外に出かけ、その中で地理的な見方や考え方など培うことが重要であると思う。しかし、授業の中で、いろんな地域へ出かけて、様々なことを観察することは困難である。そこで、授業に関係する地域の様々な事象について、可能な限りスライド等を導入して、その地域についてそれぞれが観察してもらい、地理的な見方や考え方の養成に繋がるように心掛けている。さらに、地理的な見方や考え方の実践を目指して、地域調査を課している。

社会科研究B II の授業内容において、地理的分野に重点を置いて、授業を進めている。その中で、地図に関する技能や地理的知識の空間認識力や地理的な見方・や考え方を養成することが大切であると考えている。地理学はフィールドワークの科目とも言われ、可能な限り野外に出かけ、その中で地理的な見方や考え方など培うことが重要であると思う。しかし、授業の中で、いろんな地域へ出かけて、様々なことを観察することは困難である。そこで、授業に関係する地域の様々な事象について、可能な限りスライド等を導入して、その地域についてそれぞれが観察してもらい、地理的な見方や考え方の養成に繋がるように心掛けている。さらに、小学校3・4年生で行う町歩き学習に対応して、受講生の皆さんに身近な地域の町歩きを実施してもらうことにより、具体的な地理的な見方や考え方の習得を目指している。

- ・学生さんが主体的・協同的に学ぶことができるように、4人一組で班を作り、生活科の理論と実践の資料をもとにして、少人数での班の討議や、発表・板書・司会等の役割分担しながら全体での発表など、参加型の授業になるように工夫している。
- ・生活科の理論と共に、実践事例を通して、生活科についてのイメージがわくような資料の準備を心がけている。
- ・学生さん自らが主体的に考えて取り組むことで、教師への意欲と実践的な力量形成につながるような授業形態を工夫するようにしている。
- ・新聞記事の切り抜きと壁新聞作り、発表と交流、大学生生活を支えてくれる人へのインタビューなど、体験型の授業を取り入れるように工夫している。

- ・自分の現場経験を活かした資料(文書・映像)を各種用意して、それについて議論させた。
- ・現場経験者で、現在大学教授をしておられる方の実践記録を読み、グループ討論と全体討論をさせた。
- ・研究発表会に参加する機会を設け、現場の生の様子にふれさせた。
- ・体験学習として石器作成に取り組みせ、それをどう実際の授業に活かしていくかを考えさせた。(実体験をすることの価値についても議論させた)

授業開始時には、学生間で前時の授業内容を確認し合い、授業終了時には、各自その日の授業の振り返りをさせています。毎時間グループ活動を取り入れ、互いに発言させることで「伝え合う力」を高め、理解を深めるようにしています。

科目の性格から、指導者になった場合を想定し、指導力が身につけられるよう授業実践中心の学習をさせた。自らの経験を中心に説明を加えた。

できる限り、翌年度の教育実習や、今後教員になった時に有益な活動になるよう、授業内の活動を考えたり、そのための議論等をしています。模擬授業の時間も、グループ分けにしていますが、より長い時間を設定していますので、実習時の授業をイメージしやすいかと思います。

4学年にわたり、全365時間分の小学校社会科の教材研究を90分×15回でフォローするのは無理なところである。そこで、現場に立った時に、単元目標から降ろして学習内容を明確にし、どのような教材研究を進めたらよいかということについて自ら進められるような発展性を培うことを求めた。

そのため、社会科で扱う事象についての見方・考え方を、小学校3学年社会科の第1単元「学校のまわりの様子」で扱う5つの条件＋歴史的条件をもとにして、本学周辺を学区に見立て、地形図の読み取りや観察、計測等を交え探究し、同時に、それらの見方・考え方で学生個人個人の出身学区で適用・考察し、レポートにまとめるという二重構造で展開した。